

「穴の開いた碑のようなもの」

体育館前にあるものです。これは、もともとその横にある国旗掲揚台(下の写真)の上に立っていたものだそうです。これは、昭和10年に、当時、平川の助役をされていた神郷の中村丑之丞氏が寄贈されたもので、当時としてはかなり高価なものだったようです。

この穴は、国旗を掲揚するためにロープを通していたものです。その頃は、山に行ってまっすぐな杉の木を伐採し、それをポールとして使用していたということです。



「国旗掲揚台」



現在の国旗掲揚台は、当時の土台を生かし、その上に新たにタイルを貼ったものです。この掲揚台は、平成3年に作られています。